

臼田協働まちづくりワークショップとは

ワークショップとは

もともとは「作業場」「工房」などを意味しています。

ワーク（身体を動かす）＋ショップ（自分でつくったものを公開する）、つまり参加者が主体的な学習や体験活動、共同作業を通して多くの人と積極的に交流することにより、自分自身の中に新しい「気づき」を得ながら意見や事柄をまとめていく会議です。

1 ワークショップの目的

住民の皆さんの意見を広く反映させることを目的とし、課題の発見、目指すべき方向性や方針について、住民の皆さんが主体的に参画し、行動し、理解を深めながら議論する場として、住民の皆さんによる研究検討会議（ワークショップ）を設置します。

また、これまでの、「行政主導型の行政運営」から住民と行政が対等な立場で考え、市民活動団体等とともに住民サービスを担っていく「協働型の行政運営」に移行することが求められていることから、協働によるまちづくりを進める。

2 ワークショップの一般的な約束事

- 参加者の方は、一人ひとりが水平関係にあることを理解した上で、お互い学び合う姿勢に心掛けましょう。
- 他の人の意見やアイデアを否定することや、非難するような発言は控え、自分と違った考え方や視点も大切にしましょう。
- なるべく多くの方が議論に参加できるように、発言はできるだけ短く簡潔にし、また他の人の発言は最後まで聞くように心掛けましょう。
- 発言にあたっては、なるべく専門用語の使用は避けましょう。もし、どうしても使用する場合には、わかりやすく解説するようにしましょう。

☆ワンポイントアドバイス

「話し上手より、聞き上手！」

がワークショップをより有益なものとするための心構えです。

3 ワークショップメニュー

(意見等の整理・取りまとめを行うために実施する方法)

<p>KJ法</p> 	<p>自分の意見をカードやふせんに書きだし、意見発表しながら模造紙にカードを貼り、皆で話し合います。カードをグループ化し見出しを付け、説明を書き込み、意見をまとめていく方法です。</p>
<p>ロールプレイング</p> 	<p>「推進派」や「反対派」など、課題について登場する特定の役になりきり、その人ならこう言うだろうと想定し演じることで、客観的な立場で考え、検討する方法です。</p>
<p>地図づくり</p> 	<p>白図に自由な発想で原案を描き、次に現地を歩きながら修正を加え、またカードやふせんを使って施設の配置や重要なポイントなどの文章を加えます。公園や散策路などを整備する場合に有効な方法です。</p>
<p>フィールドワーク</p> 	<p>実際のテーマに即した場所を訪れ、観察・聞き取り・アンケート調査・資料収集などを行い、文献からでは確認できない現地ならではの成果を求める方法です。</p>

※ワークショップメニューとしては他にもありますが、自由な発想でゼロから創り出すことも可能です。

4 どのような形でワークショップの意見が反映されるのか

ワークショップでの研究検討の内容を、報告書にまとめ、『臼田まちづくり協議会運営委員会』に提案します。



その提案内容を踏まえて『臼田まちづくり協議会運営委員会』は調査・検討を行い、『提言書、要望書』としてまとめ、市に提言、佐久総合病院へ要望します。